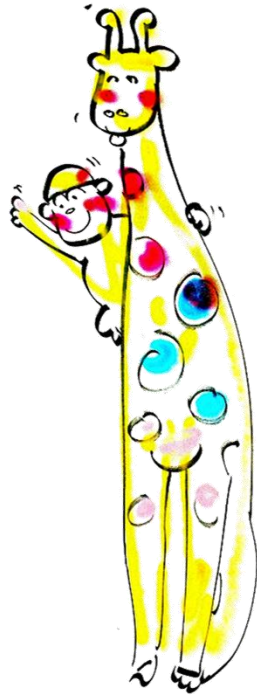


久良岐便り

第 6 9 号



10 月 8 日は十三夜。

夜が長くなり露は冷たくなりますが、空気が澄んで、輝く月がいっそう美しく見えます。

この日は、地上の園庭では第 72 回久良岐合同運動会が開催されました。

500 名もの人が昔のように、昼のお弁当を広げるには、もう少し時がかかりますが、

久良岐の歴史の先にはきっとそんな晴れの日もあるはずです。

社会福祉法人

久良岐母子福祉会

〒232-0063

横浜市南区中里 3-23-1

☎ 045-731-5994

fax 045-721-3166

<http://www.kuraki-boshi.or.jp/>

久良岐の職員研修

法人より

6～9 年目研修

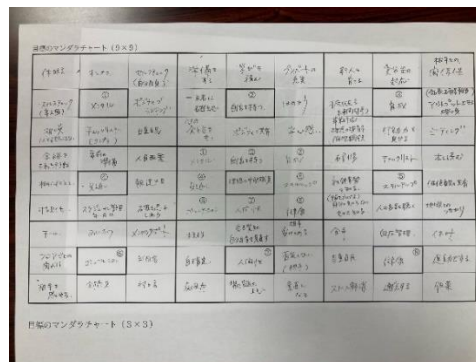
令和4年7月28日

久良岐母子福祉会館 研修室にて

昨年度に開催予定でしたがコロナの第6波で各施設の状況を鑑み延期をしましたが、第7波で各施設から感染者があり当初13名の参加予定でしたが、8名で戸塚と永田の2か所をZOOMでつないでの研修となりました。各施設通常のシフトを回すこと難しい状況で準備時間も無く開催になったので、研修開始が30分ほど遅れてのスタートになりました。

研修内容は大谷翔平選手で注目をされているマンダラチャートを作成することで「理想の中堅職員」像を具体的に考えるグループワークを行いました。偶然、母子と保育園の2つのグループに分かれワークをしたので、グループ内の共通認識が高く、小出先生が考えていた時間よりスムーズにワークが進み、そして共感度の高いマンダラチャートが時間内で完成することが出来ました。

人材育成委員会 鈴木三四朗



法人職員研修

テーマ 人権とSDGs

講師 一般社団法人
サステナブルコミュニティー共創機構
代表理事 横山泰治さん

各施設ごとに、4回に分けて実施される研修です。



久良岐保育園の今回の研修をまとめた動画はこちらからご覧下さい

新 事務長のご紹介

9月に法人本部 事務長として入職しました、嶺岸史隆と申します。

これまで一般企業で人事・総務職に従事しておりました。社会福祉法人という団体の活動は右も左もわかりません。日々、理事長はじめ職員の皆様、保護者の皆様、地域の皆様からご指導を頂きながら努めております。

70年以上の歴史ある法人の発展と、こどもたちの健やかな成長に少しでも寄与できるよう精進して参ります。

引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



ホームページリニューアルのお知らせ

4月の久良岐保育園ホームページリニューアルに続いて、10月1日より久良岐乳児院・母子生活支援施設くらき・こども家庭支援センターくらき・くらき永田保育園のホームページもリニューアルされました。

もちろん、久良岐母子福祉会のホームページも新しく変わっています。

ホームページを作ることは時間も手間もかかりますが、社会福祉法人の役割りと活動をより多くの皆様にお知らせして理解をいただき、応援を賜りたいとリニューアルに取り組みました。

どうぞご覧下さい。

社会福祉法人
久良岐母子福祉会



母子生活支援施設
くらき



久良岐乳児院



こども家庭支援センター
くらき



くらき永田保育園



久良岐保育園



第72回 久良岐合同運動会

令和4年10月8日
久良岐保育園 園庭にて



週の始めから 天気予報のマークは雨。 準備するおとなの気持ちは穏やかではありません。
今では、近隣小学校の体育館等で小さく行うことが当たり前の運動会ですが、久良岐は砂と緑がたっぷりあります。 青空も広がって、私たちを応援してくれました。
ここが私たちのフィールド！ 秋の良い1日になりました。



やる気 満々！
見事にゴールテープをさいました！



伝統の竹馬です

水森亜土さんと久良岐



それは2009年の5月のことでした。

建替え前の旧園舎に、水森亜土さんが突然現れました。テレビでは顔を拝見しておりましたが現実の世界でお目にかかる水森亜土さんも「妖精」のように可愛い方でした。

実は水森亜土さんは、理事長のご親戚にあたる方です。

持参されていたポスカやスプレーを使って、玄関の壁面や入口のガラス扉にたくさんの絵を描いて下さいました。『久良岐便り』の表紙に水森亜土さんのイラストがあるのは、そういうわけなのです。

今は、久良岐乳児院玄関と母子生活支援施設玄関にも、水森亜土さんの絵が飾られています。時が過ぎても、良いものは変わらず、それでいてその時代の人の心を暖かく可愛く励ましてくれる水森亜土さんの絵は、今日も久良岐にあって応援をしてくれる存在です。

久良岐の園庭に思う

地域より

夕暮れ時、1日の遊びが終わった園庭に私はひとり立つことがあります。
先ほどまでの大勢の子ども足跡が砂の地面に広がり、見上げれば空には藍の色が濃くなっています。

地域の子どもたちが集まる「こどもふれあい広場 いきいき」では、水遊びや園庭での活動が人気です。

そこでは多くの子どもが最新式の水鉄砲を持参して意気揚々！ たっぷりの水を背中中のタンクに蓄え相手をめがけて発射します。大変に広い園庭です。障害物なく一直線に遠くまで水が放たれる様は刺激的で、小学生にはこたえられません。

しかし、ある時ひとりの男の子の懸命な姿が目に入りました。スコップで砂を掘り、水を流し、やがてその忍耐強い遊びは久良岐の園庭に用水路を建設していくのでした。

世界のどこかでは、紛争が絶えません。「銃は何も生まない」とアフガニスタンの国で用水路を作って命を失った日本人がいます。中村哲さんです。中村さんが現地の人と引いた用水路は砂漠を潤し、人々が生活する基盤を作った事は有名です。

しばらくすると不思議なことに、最新式水鉄砲が園庭のあちこちに捨てられています。いつの間にか銃を捨て遊びに加わる子どもが増えて、シャベルを手に下流へと掘り進める子ども、支流を作って流れを迂回させる子ども、「流すぞ！」と大声で合図を送る子ども、流れが決壊しそうになると土手を作るチームが生れ、「川作り」は今や園庭の大きなプロジェクトに拡大しました。

そして私は考えます。
久良岐の園庭は、人の気持ちが抑制され、許されない失敗に悩んだり孤独を感じる時に、立ってほしい場所だと。人の喜びや悲しみに耐えられるよう包んでくれるのが久良岐の園庭です。園庭に立つと、久良岐が社会に対して成すべきことを教えてくれるような気がしてなりません。

子どもは偉いですね。
おとなができない平和への願いと歩みを、砂と水を使って実現するのですから。

久良岐母子福祉会
広報委員会 内田礼子



中里夏祭りの計画準備をしていましたが、コロナの感染拡大に中止となりました。
来年への願いをこめて短い動画を作ってみました。左のQRコードからどうぞ。

施設からのお便り

久良岐保育園

久良岐乳児院

母子生活支援施設　くらき

くらき永田保育園

中里の豚汁



秋の味覚

きのこ入り



中里の味を教わりました！



里芋、白菜、長ネギなど 10 種の食材たっぷり！！

中里の味といえば豚汁！私たちは、これまで行われてきた中里町第一公園や久良岐の園庭で行われた防災訓練に参加してきました。防災訓練が終わった後に食べる、心あたたまる豚汁は家庭とは 何かが 一味違う？味がします。豚肉に酒と醤油で下味をつけて炒める・・・このひと手間が美味しくするコツ！！地域の方が力を合わせて作ってきた味です。その中里の味を私たちは根本さんと尾崎さんに教わりました。

味の決め手はなんですか？と聞きました。

大事なのは・・・

真心です

野菜の切り方や
食材の煮込む順番なども
教わりました。



中里はなぜ こんなにも心あたたまる町になったのでしょうか？
地域の方のあたたかさを私たちは実感しながら今まで地域の活動に参加してきました。地域の方と一緒にいると不思議と誰かを想う気持ちが伝わってきます。
中里第三自治会の方々が「地域の人を想う」気持ちというものを、私たちも受け取り皆さんに返していきたい！
私たちも真心こめて豚汁とおむすびを作ります。

久良岐保育園



ほっか ほか会を開催します！



美味しく・心があたたかくなる

おむすびと豚汁をつくります。

11 月に地域の親子に久良岐の園庭遊び

に来てもらい私たちの作る中里の味を

食べてもらいます。



乳児院の“広く長い”支援とは... vol. 2



～ “長い”乳児院の支援・地域貢献についてのお話 ～

乳児院の子どもたちは、入所時に保護者・家庭生活との別離があり、退所時にも乳児院職員・施設での生活から旅立つため、『養育のつなぎ』『育ち・育てのバトントッチ』が必ず行われます。

〔家庭復帰 里親委託 他施設・医療機関等への措置変更〕など形は様々でも、乳児院を旅立ち人生の再出発をして“地域”へ出ていきます。

再出発して行った先の地域で、子どもが安定した生活・人生を送ることができているかを保育園や要保護児童対策地域協議会・医療機関などと協力しながら地域での見守りの一員として引き続き乳児院も支援を実施して行きます。

退所児にとって乳児院は、人生の根っことなる時期を過ごした場所であるとともに、自分のルーツにつながる物や保護者の手がかかり、成長の記録の残る場所でもあります。退所後の人生を送る中で自分の生い立ちについて知る、愛されて育ったことを知る。人生の軌跡を確認することは精神的な拠り所となります。

入所中の子どもたちに対しての日々の養育はもちろん大切に。

そしていつの日か里帰りをしてきた子どもたちに生い立ちを鮮明に伝えられるように、記録や写真などをしっかり残しています。

〔 “長い” 支援についての実際 〕

Episode①

〔ルーツを探りに〕



大人になり、何かのきっかけで自分の出自を知り、退所から何十年も経ってから来院される方もいます。

院長先生を含め当時を知る職員とゆっくりお話をされます。幼いころの写真や思い出話を聞き、様々な気持ちで空白の時間を満ちし、『また来ます』と帰られていきます。

Episode②

〔私って…/この子って〕



新たな場所で、沢山の事を吸収していく中で少しずつ乳児院での記憶も薄れてしまいます。来院するたびに小さい頃のアルバムを見たり、「ミルク飲むのを嫌がってね…」「小さい頃こんなことがあってね…」など自分のエピソードを聞くと嬉し恥ずかしそうな姿がとても印象的です。新しい施設の職員さんや、保護者から聞かれることも！

Episode③

〔会いに来たよ！ お帰り〕

久々の来院には少し緊張した様子の子どもたち。「お帰り。待っていたよ！」と温かく受け入れられ、あっという間に笑顔に。毎年来る子どもたちは「ただいまー！」と実家のように戻ってきます。あの頃は大きく感じたお部屋や、夢中だったおもちゃに触れ、懐かしく感じながら童心に帰り遊んでいきます。



卒院児を
ご招待した
行事の様子★



久良岐乳児院

“麴ラスク”の作り方



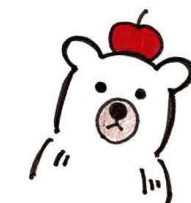
乳児院の子ども達に人気のおやつです
かけるものを変えれば色々な味が楽しめます♪

作り方☆

・焼き麴（小さめ） 10個あたりの分量

～ きなこ ～

溶かしバター 大さじ1
砂糖 小さじ1と少し
きな粉 小さじ1と少し



～ カレー ～

溶かしバター 大さじ1
カレー粉 ふたつまみ
塩 ふたつまみ
砂糖 少々



～ 練乳 ～

練乳をまんべんなくかけ回す
多めが美味しいポイント！



トースターで（弱め）3分程焼けば完成★
焦げやすいので注意して作ってください！

おもい、つながる、つなげてく。

地域の「寄り処」を目指して…

母子生活支援施設くらきには、「地域交流室」というお部屋があります。普段は子ども達の学童保育で使用されることが多いお部屋ですが、元々はくらきの利用者だけでなく、地域住民の方々も気軽に立ち寄れる場所=“寄り処”になることを願って作られた場所です。夏祭りの盆踊り練習や町内会の会合、サッカークラブのミーティング等、様々な形で地域の方々に活用されています。また、災害時には近隣住民の方々の一時的な避難場所として指定されています。

地域交流室には、外から来ても気軽に座ってお話できるテラスと、大きな多機能型キッチンがあります。特に、キッチンは、中里時代に料理教室を開いていただいていた故・渡邊啓子先生とのご縁から設置につながった物です。渡邊先生からは沢山のことを学ばせていただき、それらは今のくらきの支援にもつながり、受け継がれています。



TOPIC

～お手軽ご飯で彩る親子の食卓～

渡邊先生は、長年に渡り、くらきで料理教室や「食」にまつわる講座の講師として、大変お世話になった先生です。平成6年に第1回料理教室が開催され、その後、年2～4回ずつ開催された料理教室は全80回に及びます。このことから、歴史の長さを感じられます！

先生がくらきで教えて下さる料理は難しいレシピではなく、「身近にあるものを使って作る簡単レシピ」です。第一回料理教室で先生が考案して下さったのは、「①ソーメン②シーチキン入りのかき揚げ③ハウレンソウと卵の巣ごもり」の3品です。このメニューからも、先生の想いを感じ取れるのではないのでしょうか。家事や育児、仕事で忙しいお母さんたちが無理することなく、親子で一緒に食卓を囲めることに意義がある。料理を作れなくてもいいから、出来合いのお惣菜をお皿に移したり、弁当箱に移す。そうして、親子が一緒にご飯を食べることで、会話が弾み、ほっと一息つける親子団らの時間につながります。それが先生の教えです。

また、栄養学だけでなく、中国漢方や手相学、人相学にも通じた渡邊先生。料理教室だけでなく「食」にまつわる講座の中で、私たちは沢山の学びを得る事ができました。しかしながら、学ぶことが重要なのではなく、お母さん達と先生や職員と一緒に料理をする、その際に生まれる何気ない会話こそ、先生はとても大切にされていました。これらの先生の想いは、今も私たちの支援に受け継がれ、くらきが大事とするところにつながります。

先生が料理教室を開いてくださった当時、中里にあった久良岐母子寮のキッチンは小さく、外部の調理室を借りて料理教室を行っていました。しかしながら、先生が教えて下さるのは料理だけでなく生活のこと等、多岐に渡ります。これらのことは、利用者の方々が住む生活の場でこそ展開したいという強い思いがあり、地域交流室に大きな多機能型キッチンを設置したのであります。地域交流室のキッチンには、受け継がれた大切な思いが沢山詰まったキッチンなのです。



渡邊 啓子先生

管理栄養士。

国立療養所犀潟病院、国立南横浜病院
国立小児病院、国立横浜病院の
各栄養管理室長を務める。

今夏、関東学院大学の学生さん8名が、日替わりで学童ボランティアに来ていただきました。夏休みで元気を持て余した子ども達と沢山遊んでいただき、子ども達の笑顔を沢山見る事ができました！また、くらきを退所したお子さんの学習支援にも携わっていただき、夏休み期間中、定期的に遊びに来る機会にもつながりました。今後もボランティアに来たいと言って下さる声もいただき、私たちもとても嬉しく思っています！ありがとうございました。以下、振り返りアンケートからいただいた感想を抜粋します。

子ども達がフレンドリーに接してくれて時間があっという間だったとても楽しかった

学校で学んだことは沢山あるけれど、体験してみなければ分からない事もあることを学んだ



廃材

アイデア

＝子どもが創る循環型社会

くらき永田保育園

あーちゃんって?? 🐢

4年前の異年齢のテーマが“恐竜”で、その際に『恐竜の飼い方』という本を読んだら、4歳児の女の子が「きょうりゅうを飼いたくなっちゃった!」と言い出したことが始まりです。どこで売っているのかな?と田中鳥獣店に「恐竜売ってますか?」と問い合わせをしたところ、紹介してくれたのがヒョウモンリクガメのあーちゃんでした。あーちゃんという名前も“アーケロン”という恐竜に似ているので、『あーちゃん』という名前に決まりました。飼育を目的に飼った訳ではなく、子どもたちの声から始まったあーちゃんとの生活でした。

くらき永田保育園の

アイドル



あーちゃん

身長：34cm
体重：6,6kg

事務所の冷蔵庫の
野菜室はあーちゃんの
野菜でいっぱい!!

野菜が集まってきた!

大食いのあーちゃんの食材は、給食で余った食材だけでは足りませんので、保護者に家庭での残り野菜を提供してもらっています。あーちゃんのお世話をする異年齢クラスの子どもたちや保護者の方はもちろん馴染みがあるので、異年齢を中心に野菜を持って来て下さる家庭が多かったのですが、乳児クラスの保護者からも野菜を寄付してくれることも多くなりました。「少しなんですけど・・・」「捨ててしまうところなんですけど」と持って来てくれる方が多い中、最近では「子どもが食べていたメロンを「あーちゃんにあげたい」と言うので持ってきました。」とまだまだ人も食べられる食材を持ってきてくれることが多くなってきたのです。今までは廃棄してしまうものが多かったのですが、子どもたち自身のなかであーちゃんという存在が仲間のように身近な存在で自分の食べているもの、好きなものを共有したいという気持ちが芽生えているのだと感じさせられます。



あーちゃんのお世話

あーちゃんは保育園のアイドル的な存在ですが、うんちもするし、食べ物も食べ散らかすので実は手がとてもかかります。あーちゃんのお世話は、異年齢の子どもと職員が中心に行っています。その日のお当番の子ども達があーちゃんのご飯を事務所に取りに行き、朝餌やりをしてくれます。職員がゲージの掃除をしていると餌をあげに来てくれる子どもがいます。また、夏場に園庭でお散歩していると日陰を好むあーちゃんを子どもたちが探し、まるでかくれんぼをしている姿はまさに友だちのように見えます。

ホームステイ

園で飼っているあーちゃんですが、連休や長期休みの時のエサやりはどうしよう?!という問題が出てきました。始めは、職員の家庭へ預かってもらい、ホームステイをしたり、職員が順番に保育園に来て、餌やりと掃除をしていました。保育園の子どもたちもあーちゃんが大好きなので、保護者にもホームステイをしたい方を募ってみました。ホームステイという手法は、元々ロボットがテーマだった際に、ロボットの友だちをホームステイしたことがあったので、預かってくれる家庭はすぐに見つかりました。週明けには、あーちゃんと過ごした時間を楽しそうに話してくれるのを聞くことが、職員の楽しみでもあります。



Reuse 🌂

保育園の傘立てに忘れられて残っていた傘。本来なら破棄してしまうところなのですが、絵の具と木製ボンドを混ぜて子ども達が装飾をして遊びました。



その装飾した傘は先日の運動会の際に吊り下げて、万国旗のようにして飾りました。見上げても綺麗でしたが、絵が影になって地面に映る様子も素敵でした。

編集後記



夕暮れの緑の井戸端(畑)です。
里芋は最後の作業。根元に土をかけました。
写真左は「仏手柑」
柑橘の一種でこれから黄色く熟し、ちょうど
仏様の手のように開いていきます。
畑は人の足音を聞いています。
毎日、足しげく通い様子を見てやると作物が
よく実るというのは、本当です！
本当なのですよ。

(内田)

第 69 号

令和 4 年 10 月 13 日発行

編集委員

高山 吉田（久良岐保育園）

中島 平良（久良岐乳児院）

太田（母子生活支援施設くらき）

斎藤（くらき永田保育園）

広報委員長 内田（久良岐保育園）